日本軍「慰安婦」問題・関西ネルワーク 2013年6月23日 ニュースレター No. 6

連絡先:大阪市生野区勝山北

4-9-12 Cafeナビ気付

Email: info@ianfu-kansai-net.org URL: www.ianfu-kansai-net.org 振込口座: 00980—3—209232

□座名義:日本軍「慰安婦」問題

• 関西ネットワーク

再び戦争への道を歩まないために

集会 抗議行動へのご協力、ありがとうございました。



安倍政権の再登場で再び憲法改正が声高に語られ、不穏当な空気が日本社会を覆う中、私たちは韓国挺身隊問題対策協議会の提案を受けて、「日本軍『慰安婦』被害者証言キャンペーン 2013」を企画しました。5月17日から10日間にわたって金福童ハルモニ、吉元玉ハルモニのお二人の被害者をお招きして沖縄、

福山・広島・岡山・ 大阪・奈良の各地で 証言集会を開催しま した。

非難の声が広がっています。それでも「強制連行の 証拠はない」「どこの国でもやっていた」と繰りかえ される言葉に誰より深く傷つけられたのは被害者自 身でした。

日本に到着して以降も連日報道される市長の言動 に接したお二人は、「会いたくない!」「会ってどうな る」と面談をきっぱり拒否、関西では多くのみなさ んの応援を受けて、笑顔を取り戻されました(別稿参照)。キャンペーン行動は各地で予想を上回る人々が詰めかけ、大きな反響がありました。

同時期、国連の社会権規約委員会は「慰安婦」を めぐるヘイトスピーチについて日本政府に「公衆を 教育し、憎悪表現や汚名を着せる表現を防ぐ」こと



過去の歴史的事実 を知ること、凄惨な

被害の事実に目を向け、被害者の痛みを知ることは 今の日本にとって何よりも重要なことではないかと 考えます。かつての戦争で起こったことは遠い過去 の歴史として、人々の記憶からも忘れ去られようと しています。しかし、事実の重さ、命の大切さに向 き合うことなく進む果てに一体何が待っているでしょ うか。今からでも遅くはありません。いえ、今だか

水曜集会に参加しましょう!

梅田・ヨドバシカメラ前

毎月第1水曜日 19:00~

阪神間 毎月第2水曜日 18:30~

神戸市内 毎月第3水曜日 18:30~



らこそ行動しなくては。そんな思いが被害者である ハルモニたちを突き動かしたのでしょう。ひとりで も多くの市民と出会い、語り伝えること、その小さ な積み重ねが、人々の意識に変化をもたらし、必ず 戦争への道の歯止めになると信じて。私たちは今、 その思いに応えねばならないのではないでしょうか。

「慰安婦」問題を一貫して否定し、強制連行はなかったと言い続けてきた安倍首相は、今は国際世論の厳しい目を避け、「河野談話」「村山談話」の見直し発言は封印していますが、「強制性を示す資料はなかった」と繰り返す一方で、歴史教科書への介入など、歴史教科書への介入など、歴史を書々と進めています。侵略戦争を正当化し、民族排外主義を煽る安倍政権はこの参議院として、実力をもい、できる国」を要ができる国」を要ができる国としています。私たちにとっては過去をめているうとしています。私たちにとっては過去をめてさるうとしています。私たちにとっては過去をめてい、平和で人権が尊重される社会をめてい、平和で人権が可重される社会をめてい、平和で人権ができる「慰安婦」問題解決にのか、重要な分岐点になる「慰安婦」問題解決に

向けて、私たち市民のありかたが問われています。

最後に、この間、橋下市長への抗議文に賛同を寄せてくださったみなさん、抗議行動に参加して、ともに声をあげてくださったみなさん、さらに当日集会に駆け付けてくださったみなさんに心より感謝申し上げます。

大阪集会では思いがけず多くの方が参加してくださったことで開始時間には満席となり、やむなく帰っていただいた方が100人以上おられました。中には遠方からこられた方が何人もいたと聞いています。また私どもの想像を遥かに上回る参加者数に、数々の不手際があったかと思います。大変申し訳なく、この場を借りて深くお詫び申し上げます。

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークは、これからも被害者の心に寄り添い、問題解決に向けて前進していく所存ですので、今後も厚いご支援をお願いいたします。

日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク

橋下市長の暴言を許さない!

私たちの抗議行動と、面会拒絶に至る経過

■橋下市長、

昨年秋に引き続き、ふたたび暴言を連発、

橋下市長は5月13日、記者会見の場において、日本 軍「慰安婦」被害者を傷つける発言をおこないました。

「銃弾が雨嵐のごとく飛び交う中で命をかけて走っていくときに、精神的にも高ぶっている猛者集団をどこかで休息させてあげようと思ったら、『慰安婦』制度は必要なのは誰だってわかる」と、日本軍「慰安婦」制度が当時必要なものであったと主張したのです。これは「慰安婦」被害者の受けた被害が、戦争遂行のために必要なものであったということです。兵士のために女性を性奴隷として誘拐・監禁し、最前線まで引っ張り回すことが、正当であると主張しているのです!

その上で「当時の歴史を調べたら、日本国軍だけでなく、いろんな軍で(『慰安婦』を)活用していた」「なぜ日本の『慰安婦』だけが世界的に取り上げられるのか。日本は国をあげて強制的に『慰安婦』を拉致し、職業に就かせたと世界は非難している。だが、2007年の(第1次安倍内閣の)閣議決定では、そういう証拠がないとなっている」と、またしても「証拠はない」論を展開しまし

た。もちろん日本軍「慰安婦」制度は、軍が組織的に性暴力システムを築き管理した、史上類を見ない国家犯罪です。また強制連行の証拠は数多ありますが、ここでは逐一反論しません。そして何よりも連行の強制が問題なのではなく、慰安所での強制が問題なのです。橋下市長の主張は、ウソとゴマカシ・スリカエに満ちています。(反論の詳細は私たちのHPに吉見義明さんの講演録を掲載しているので、それをご覧下さい。)

そして極めつけに許せないのはこの発言です。

「意に反して『慰安婦』になったのは戦争の悲劇の結果。戦争の責任は日本国にもある。『慰安婦』の方には優しい言葉をしっかりかけなければいけないし、優しい気持ちで接しなければいけない」

つまりこれは「『慰安婦』の方々はおかわいそうだけれど、証拠はないのだから、犯罪被害者ではないよ」と言っているのです。

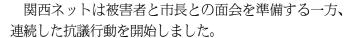
優しい言葉? 優しい気持ち? — 被害者が求めているのはそんなものではありません。必要なのは優しい言葉ではなく、心のこもった謝罪です。

これほど、被害者をないがしろにし、尊厳を傷つける 言葉はありません。

■橋下市長への連続抗議行動

橋下市長のこの発言を聞いたのは、私たち関西ネットが5月25日と26日に韓国の被害者2名を迎えて集会を開催する準備をすすめ、「2人の被害者が橋下市長に面談を求めている」と大阪市側に要請しているさなかでした。それまで大阪市側からははっきりした返事をもらっていなかったのですが、5月13日の夕刻、大阪市側から「橋下市長が会うと記者会見で言明したので、面会の段取りを進めたい」と申し入れがりました。面会の日程は、5月24日の11時か

ら通訳を交えてのたった30分だけ、公開の場で、しかも人数を制限してという条件をつけての約束でした。



5月17日の大阪市役所前抗議行動には、緊急の呼びかけにもかかわらず、約450人もの人が結集しました。 関西ネット代表の3人が抗議文を手渡しましたが、橋下市長には残念ながら会えませんでした。それだけではありません。私たちはメディアには5階の政策企画室に届けると伝えていました。実際これまでの抗議の団体はそうしていましたし、いくつかのメディアは政策企画室前で私たちを待っていたようです。それなのに……政策企画室担当者は私たちの集合場所まで来て、市役所内には入らせず、南側入り口で受け取ろうとしました。あんまりだと抗議すると、玄関から入ってすぐのロビーで受け渡しすることになりました。

私たちは抗議文を読み上げ、その後、各方面の皆さんからのメッセージを受けました。そして橋下市長に届くように、大きな声でシュプレヒコールをあげ、集まった人々で大阪市役所を包囲するヒューマンチェーンを実行。見事につながり、感慨の歓声が上がりました。

この日手渡した抗議文の賛同者を、同時に募り始めました。5月24日にハルモニたちが橋下市長と面会することは決まっているのに、傷を受けた被害者たちだけを前に立たせるわけにはいきません。ネットで賛同者を募ると、瞬く間に賛同の声は広まっていきました。

■今回の橋下発言にいたる経過

今回の5月13日以降の橋下市長の日本軍「慰安婦」問題をめぐる発言は、ほぼ半年ぶりでした。昨年8月21日以降にも同じような発言をして、私たちは抗議を繰り広げました。



5月24日には300人以上もの支援者がかけつけました

「『慰安婦』という人たちが、軍に、暴行、脅迫を受けて連れてこられたという証拠はない」「あったというのであれば、韓国の人たちにも出してもらいたい」という発言に始まり、その後「意思に反して強制されたかどうか、裏付ける証拠がない」「河野談話は最悪」「軍人の秩序を保つため、いわゆる慰安所が存在したのは日本だけではないし、風俗業は今でも世界各国に存在する。『慰安婦』と同形態の風俗業も存在する」などと発言をエスカレートさせていきました。

これら一連の発言に怒った金福童ハルモニが「私自身が証拠だ」と声を上げて来阪し、昨年9月24日に橋下市長に面会を求め大阪市役所に乗り込みました。事前に何度も申し入れをしていたにもかかわらず、私たちが行った時間には橋下市長は公務を休んでツイッターに興じていました。しかしその翌日、記者にその事を質問された橋下市長は「いや、お会いしますよ」と平然と言ってのけたのです。

そのような昨年の経過があっての、今回の橋下市長の 対応でした。

橋下市長の発言の内容がそう変わったわけではありません。しかし半年前とは違い、今回の発言は大きな批判を浴びることになりました。前回の発言は、民主党政権末期の、自民党総裁になる前の安倍現首相にすりよるための発言でした。しかし今回は、安倍政権の歴史認識と河野談話見直しの姿勢を米国にも批判され、ソフトに押さえることを余儀なくされる中での、右からの援護射撃でした。全世界からは、橋下市長の発言が日本で人気も責任もある政治家の発言として、重く受け取られました。

■橋下発言に多方面から批判集中

特に13日夕刻の記者会見での発言は、世界中の女性、 そして沖縄の人たちだけでなく、米政府の怒りまでも買いました。 「『慰安婦』制度じゃなくても風俗業は必要だと思う。 沖縄の普天間に行ったときに、司令官に『もっと風俗業 を活用してほしい』と言った。性的なエネルギーを合法 的に解消できる場所はある。真正面から活用してもらわ ないと、海兵隊の猛者の性的なエネルギーをきちんとコ ントロールできないじゃないですか」

この発言は、日本軍「慰安婦」問題が歴史認識の問題であると同時に、現在の女性の人権の問題でもあるということを、とても逆説的に提起しました。そして橋下市長に人権感覚が全く存在しないということを露呈させたのです。

橋下市長は支持率低下もさる事ながら、特に米国の反応を気にして発言の微修正を重ねました。時には「日韓基本条約で解決済み」とする歴代政権を批判し自分こそが「慰安婦」問題を解決できるかのような主張をしてみたり(後日に「解決済み」と言い換えましたが)、「世界各国が過去を直視し、女性の人権を尊重する世界をつくる」とあたかも自分こそが女性の人権の擁護者であるような口ぶりであったり、……そして終いには「マスコミの大誤報」であり「日本人の読解力不足」でした。

一貫していたのは、いくらゴマカシ・スリカエを繰り返しても、決して前言を撤回したり謝罪しなかったということです。「性風俗活用発言」については撤回したものの、その理由は風俗業=売買春と受け取られてしまったという「誤解」であり、謝罪した相手は女性たちや沖縄の人たちではなく米軍でした。そんなものは撤回ではないし、謝罪でもありません。

■ハルモニが面会を拒絶!

この一連の橋下市長の発言に、もっとも心を痛めたのは、来日したハルモニたちでした。

18日に金福童ハルモニは沖縄へ、書完宝ハルモニは広島に入られました。大阪に入るまでほぼ1週間、テレビと取材の記者を通じてハルモニたちはつぶさに橋下市長の発言を知ることになったのです。(特に金福童ハルモニは日本語が理解できます。) そんな橋下市長の姿を毎日毎日見せられて、ハルモニたちは心の底から嫌になったのです。吉元玉ハルモニは「もう死んだ方がましだ」と記者の前でこぼすほど、憔悴しきっていました。金福童ハルモニは沖縄で記者に橋下発言について問われ、苦痛をこらえ目を真っ赤にしていました。

もう一度橋下発言をよく見て下さい。慰安所に何年も の間監禁され、性奴隷とされた被害者たちが、どのよう な思いでこのような心のない発言と向き合わなければな らなかったか?!

多くの性犯罪の被害者はPTSDを抱え、ふとしたこ

とでも過去の記憶が蘇ります。それは元気そうに見える「慰安婦」被害者も全く同じです。何十年経っても傷が癒えることは困難です。ましてや、橋下市長のような人物が現れ、何度も何度も、傷つけられるのです。それがどれだけ耐え難いことか!

大阪市側からは立ち位置を細かく指定され、市長から 口火を切りたいなど、耐え難い要求を幾つもしてきまし た。私たちの人数は制限するのにメディアの人数は制限 せず、部屋は次第に大きくなっていきました。通訳を交 えて30分しかないのに、あの口達者な橋下市長から話 し出したのでは、被害者の話を聞く気がないのは明らか です。私たちはそのつど反論し不信感を抱いてきました が、市長の「謝罪」パフォーマンスの意図を露骨に感じ ずにはいられませんでした。彼のこれまでの数々の政治 パフォーマンスをみていれば、それほど奇異なことでは ありません。しかしその過ちを認めず国家責任さえ認め ない「謝罪」がどれだけ被害者の心を傷つけることか!

関西ネットでは、24日の面談に向け準備を進めていました。17日に提出した抗議文に対する賛同は、「私たちもハルモニを支えよう」という呼びかけがあっという間に拡散し、たった1週間で5500人にまでふくれあがっていました。多くの人の期待が、24日の面談に集中していました。

しかし私たちは、結果として、直前に面会を拒絶する ことに決めました。ハルモニたちが精神的に耐えられな いという重みを受け止められない私たちではありません。

改めて考えて見てください。橋下市長は、今も犯罪被害の傷を抱えるハルモニたちが面会するに値する人物か否か。

24日には300人を超える支援者が、中之島女神像に駆けつけました。「慰安婦」問題、教育反動反対、日の丸君が代強制反対、朝鮮学校、リバティ・ピースおおさか、反原発、反基地などに取り組んでいる人たちが、反橋下で集結しました。前々日院内集会を開催した東京の方や北海道の方など、遠方からも参加があり、橋下発言を許さない気持ちがひとつになりました。

当日、私たちは記者会見を行い、ハルモニ2人の声明と、関西ネットの声明を発表しました。面会拒否の決断は、概ね好意を持って受け入れられました。ハルモニの声明にある、「橋下市長は面談の対象ではなく『審判』の対象」という主張は、橋下市長に反対する多くの支援者の共感を得ることができました。

面会拒絶という判断は正しかった——私たちはそう確信しています。

「何度でも語る 歴史の真実はこれです」

日本軍「慰安婦」被害者証言キャンペーン2013 in おおさか・なら



■ふたりのハルモニ、元気になられて語る

2013年5月25日(土)は大阪ドーンセンターで、5月26日(日)は奈良県人権センターで、金福童ハルモニと書完式ハルモニをお迎えして集会を開催しました。奈良集会は、関西ネットの他、アイ女性会議なら、多文化共生フォーラム奈良、部落解放同盟奈良県連合会女性部の4者での共催です。25日の大阪集会は会場の定員である500人を遥かに超える人が詰めかけ、申し訳ありませんが多くの方にお帰りいただく結果となってしまいました。26日の奈良集会には、やはり会場を埋め尽くす500人もの方にご参加いただきました。

ふたりのハルモニは、面会拒絶という苦しい結論を出して、まるで憑き物が落ちたかのように晴れ晴れしたお顔になり、元気に証言されました。

金福童ハルモニは、軍服工場で働くと騙され、東南アジアの地を転々とし、戦後も放置された苦しい半生を語られ、「私は生まれる時代を間違えた」と悔しさをにじませました。

「日本人は自分たちがやったことではないと言いますが、どうやったら民間人がこのような軍人たちを相手にするための慰安所をつくることができるというのか? 広東、香港、マレーシア、スマトラ、インドネシア、ジャワ、シンガポール……私は前線地帯を転々と回り、日本軍が行ったところに行かなかった場所はない。私は死にたくても、死ぬことができなかった。」

「解放後、看護師としての訓練をさせられ、傷ついた 患者たちの看護をした。血が足りなくなれば、私たちの 血を輸血した。」

「いつの間にか患者もいなくなり、私たちが現地に残された。その後米軍によって収容所に入れられ、やっと韓国に帰った。けれどそれは私たちにとっては『解放』ではなかった。数十人もの日本兵の相手をした……そんなこと誰に言えますか?!」

「名乗り出て闘って 20 年以上経った。それでもなお日本政府から一言の回答もない。それどころか今また戦争の準備をしている。とんでもないことだ。」

金福童ハルモニの半生を聞いたとき、私たちは橋下市 長の口先ぶりを憎まずにはいられませんでした。橋下市 長は「慰安婦」制度は必要だったと言い放ちましたが、 「生まれる時代を間違えた」と悔しさをにじませる金福 童ハルモニに向かって「生まれた時代を間違ったあなた の責任」とでも言うのでしょうか?

吉元玉ハルモニは「被害にあったのは 11 歳で、今は 85 歳。70 年間、人として生きて来れなかった。体調が 悪くても日本にやってきたのは、日本が再び戦争への道を歩もうとしているからだ」と、平和の尊さを切々と語られました。

「世界中で今もなお紛争地で苦労している人たちのためにナビ基金を作った。みなさんもぜひこれに協力して欲しい。本当にお腹が空いているひとには分からないかも知れないが、私たちの国もかつて貧しかったし、今も

お腹の空いている人は世界中にいる。自分がお腹がいっぱいでも、隣人がお腹が空いていれば、平和に暮らすことはできない。」

吉元玉ハルモニは、自分のことよりも他人の苦しみを 思い、今もナビ基金を呼びかけ、また朝鮮学校への差別 政策の撤回と支援を求めます。数年前は涙なしに語れな かった自分自身の体験を、今は自身の体調は決してよく ないのに、「自分と同じような人を生み出したくない」 と多くの人に穏やかに語りかけます。ハルモニにとって 「被害者を二度と生み出したくない」という思いを糧に、 ナビ基金を立ち上げ行動することが、被害回復の糧となっ ているのです。その姿に、私たちは感動を覚えました。

■吉見義明さんは橋下市長の主張に反撃 尹美香さんは日本の支援者を叱咤激励!

中央大教授の吉見義明さんからは、橋下発言を検証し、 慰安所での被害そのものが性奴隷に他ならないこと、日本軍「慰安婦」制度が日本にしかないものであること等を、具体的に事実を持って反論されました。そして「強制連行」ばかりを問題にしているが「誘拐」「人身売買」も当時の法律からして犯罪であり、また中国・フィリピンなどの戦地では力ずくの「略取」も横行し、当時の法に照らしても「慰安婦」制度は犯罪であったと喝破しました。

新美香挺対協代表は、「橋下市長にも娘がいるそうだが、私の娘が同じ被害にあったら、泣き叫び、狂ってしまうかも知れない。でも気が狂うほど代弁してくれる人は、ハルモニにはいない」「20年間日本政府に謝罪を求めて闘ってこられた被害者は、私たちの希望なのだ。みなさんもハルモニたちから受け取った希望を胸に、橋下や安倍を追い詰めて欲しい」と明るく話されました。

■大阪集会では

李政美さんと安聖民さんが歌声を披露 奈良集会ではアニメ「少女の物語」上映と、 吉元玉ハルモニが詩の朗読

また、大阪集会では、李政美さん、安聖民さんの歌が、ハルモニたちの心に寄り添い、とても感銘を与えてくれました。韓国から日本に渡ってきた在日1世たちと同じように、故郷を離れ北間島に移り住んだ同胞の間で歌われた「サンヂュアリラン」を安聖民さんが歌い、植民地朝鮮で祖国の解放を願い地下水脈のように歌いつながれた「鳳仙花」を李政美さんが歌い、そして2人で「ミリャンアリラン」を歌ったとき吉元玉ハルモニは恥ず

かしそうに舞台に現れて一緒に歌い踊った瞬間、会場は感動に包まれました。

奈良集会では、アニメーション作品「少女の物語」が 上映されました。「少女の物語」はチョン・ソウンハル モニの証言にアニメーション画像をのせたものです。証 言に映像がのっただけでリアルさが増し、見る人の涙を 誘いました。また吉元玉の人生を尹美香代表が詩にし、 それを吉元玉ハルモニが朗読するという素敵な一幕もあ りました。

■橋下市長の幕引きを許さず、辞任させよう!

金福童ハルモニは「橋下市長には呆れるばかり。あの人にも娘がいるというのに、自分の娘を私たちのようにして平気なのでしょうか? そんなことをいう人に、市長である資格がありますか? 資格のない人は市長の職を辞して欲しい」といいました。

全くその通りです。

橋下市長は発言をスリカエ、ゴマカシ、時にはしおらしい態度を取りながらも、一切過去の発言を謝罪しません。マスコミのせいにし、日本人の読解力のせいにし、しかし「『慰安婦』制度が当時必要だった」という発言も、「強制連行を示す証拠はない」という発言も撤回しません。もちろん国家の責任も認めていません。国家の責任を認めない謝罪は、謝罪ではありません。それは「おかわいそうな人々」に対する同情であって、被害者はそんなものは一切求めてはいないのです。

橋下市長のこのような確信犯的な差別発言も、その後のスリカエ、ゴマカシ、鉄面皮ぶりも、謝罪のない幕引きも、絶対に許すことはできません。

ハルモニたちの面会拒絶を私たちも重く受け止め、橋 下市長に謝罪と辞任を求めて、これからも闘いを継続し ていきます。



橋下市長への抗議、今なお継続中!

集会の後も、私たちは橋下市長に対する抗議を継続しています。橋下市長は発言を撤回しないばかりか、「慰安婦」問題では幕引きを図る一方、八尾空港へのオスプレイ誘致をパフォーマンスし、あれだけそこに住む女性たちの神経を逆なでした沖縄を訪問するなど、全く反省の態度を見せていません。そんな橋下市長を許すわけにはいきません。

6月4日、吉見義明さんは橋下市長あて公開質問状を提出しました。吉見さんの公開質問状は、論理立てて詳細に項目分けされ、「慰安婦」問題に疑問を抱く全ての人に読んで欲しい内容です。もし、橋下市長がそれにきちんと答えようとして勉強するなら、「強制連行の証拠は

ない」「どこの国でもやっていた」などという発言は撤回して謝罪するしか道はないはずです。

私たちも吉見さんと日を合わせて3項目の要望書を手渡し、抗議文の賛同署名3871筆も追加提出しました。

6月20日には、橋下市長の沖縄「慰霊の日」参加に抗議して抗議文を手渡し、この時も478筆の賛同署名を提出しています。

5月17日にスタートした抗議文への賛同署名は現在も寄せられており、24日に提出した5500筆を合わせ、1万筆を超えています。これまで多くの方々の熱意で、これだけたくさんの賛同を得ることができました。本当にありがとうございました。

関西ネットはこれからも橋下市長を追及し続けます。

茨木市長(維新の会)、 きたもや問題発言! 木本市長への抗議行動報告

橋下市長の発言に対する対応でバタバタしているさなか、おどろくべき発言が舞い込んできました。

日本維新の会共同代表の橋下徹大阪市長が行った従軍 慰安婦に関する一連の発言について、茨木市の木本保平 市長は30日の定例記者会見で、「若い人たちが明日にも 死ぬような状況の中で、コンフォート(慰安)を求めた 気持ちは理解できなくもない。(橋下氏は)おおむね正 しい」と理解を示す発言をしたのです。

木本茨木市長は大阪維新の会出身の市長です。発言内容は橋下市長と全く同じで、橋下市長が孤立するさなか、同じく自治体の首長という公職の立場にありながら、被害者の癒えない傷に塩を塗り込む発言を行い、真正面から橋下市長を援護したのです。

3日、私たちは茨木市役所を訪ね、木本市長への抗議文を届けました。

秘書課にアポを取っていましたが、市長は不在。秘書 課長に抗議文を読みあげ、「橋下市長発言がこれだけ国 際的な問題になっているときに木本さんは自覚がないの では。責任をとるまで抗議を続けます」、「茨木市民とし ては茨木市がこんなことで"有名"になってほしくない。 早く謝罪と撤回をしてください」と付け加えました。

その後、木本市長から、回答のFAXが届きました。 その内容は「逆ギレ」とも言える内容で、しかも宛先と 日付が空白のままの、体裁さえなしていないものでした。

「戦後日本の国はアメリカによって東京裁判史観に大部分の人が洗脳されました。私は東京裁判史観に同意す

るものではありませんが、今後とも私と歴史観が違う東京裁判史観の人たちの意見を十分に拝聴したいと思うし、それが言論の自由の基本ではないでしょうか。私に対して発言を取り消せとか謝れということは、あなた方は自分で自分の首を絞めているようなものですね。」

市長は市議会の中でも、「この場はそういうことを議論する場でない」「市長にも人権、言論の自由がある」等々、市長としてあるまじき不誠実な居直り発言に終始しています。橋下市長同様、木本市長のこのような態度を許しておくわけにはいきません。

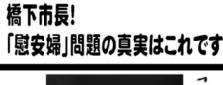
市役所にはかなりの数の抗議の電話、FAX、メールが届いたようです。しかし、まだまだ足りません。引き続き、茨木市長への抗議をお願いいたします。

なお、抗議文への賛同は、2日の深夜に発信して3日 の正午までに28団体から届きました。みなさん、あり がとうございました。今後のことにご注視下さい。私た ちもプログ等を通じて。発信していきます。



橋下市長! 関西ネットの 新しいパンフレット 「慰安婦」問題の真実はこれです

昨年の橋下市長発言に対する関西ネットと金福童ハルモニの抗議運動と、大阪による弾圧までを、一冊のブックレットにまとめました。「慰安婦」問題への理解と、橋下批判の一助になれば幸いです。みなさん、ぜひご活用下さい。





金福堂ハルモニ来阪から 大阪府管による弾圧までの 日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワークの

お 礼

今回の集会に際して、全国からたくさんの皆様にカンパを寄せていただきました。以下、感謝の思いを込めて、集会会計報告をさせていただきます。

残金は、8月14日に予定している集会など、日本軍 「慰安婦」問題解決のための活動に大切に使わせてい ただいております。

本当にありがとうございました。

「真実はこれです!」集会の収支報告(2013.5.23~27)

75 0	dn 3	+ 111
項目	収入	支 出
前売券	167,600	
当日参加費	456,200	
賛同金	437,100	
カンパ	12,890	
会場費・舞台経費等		133,240
ゲスト招聘費		279,328
博物館カンパ		50,000
謝礼		100,000
集会用横断幕		10,800
資料作成費		40,763
〃 郵送費		49,620
車両関連費		17,704
警備費		9,434
交流会負担金		12,000
集会DVD制作費		5,000
雜費		4,494
小計	1,073,790	712,383
差引収益		361,407
合 計	1,073,790	1,073,790
日本軍「慰安婦」問題・関西ネットワーク		

ロ本単、忠女卿」问題・民四イットノー

ご支援を、よろしくお願いいたしきす。

日本軍「慰安婦」メモリアル・デーを国連記念日に! 〜 戦 時 性 暴 力 被 害 者 か ら 変 革 の 主 体 へ 〜 ↓

~ 戦時性暴力被害有から変革の主体へへ 歴 史 の ね つ 造 は 許 さ な い !

■日時:8月11日(日)10:30開場 11:00開会

■会場:東京ウィメンズプラザ・ホール

■証言:ピラール・フリアスさん(フィリピン)

■シンポジウム パネリスト

チャウドリーさん

(バングラデシュの元国連大使、元国連安保理議長)

尹美香さん (韓国・挺隊協代表)

岡真理さん(京都大学教員)

ファシリテーター 渡辺美奈

■主催:日本軍「慰安婦」問題解決全国行動

8・14を国連記念日にしよう!キャンペーン

関西では14日に集会を開催します!

日本軍「慰安婦」メモリアル・デーを国連記念日に! 被害者証言集会(仮)

■日時:8月14日(水)18:00開場 18:30開会

■場所:住まい情報センター ホール

■証言:ピラール・フリアスさん(フィリピン)

関西での集会の内容等、詳細はこれからです。 歌の大好きなロラ・ピラールが、久しぶりに大阪に 来られます。体調がすぐれないロラをお迎えするにあ たり、気を引き締めて準備を進めたいと思います。

みなさま! お盆の時期ではありますが、スケジュールを空けてお待ち下さい。

今回のニュースに掲載できなかった抗議文や声明書などは、関西ネットのホームページやブログに 掲載しています。ぜひご覧になって下さい。「慰安婦」「関西ネット」で検索すればヒットします。